

## 平成23年度 京の文化力・次世代育成プラン

【担当部課】文化環境部文化芸術室

### 問題意識

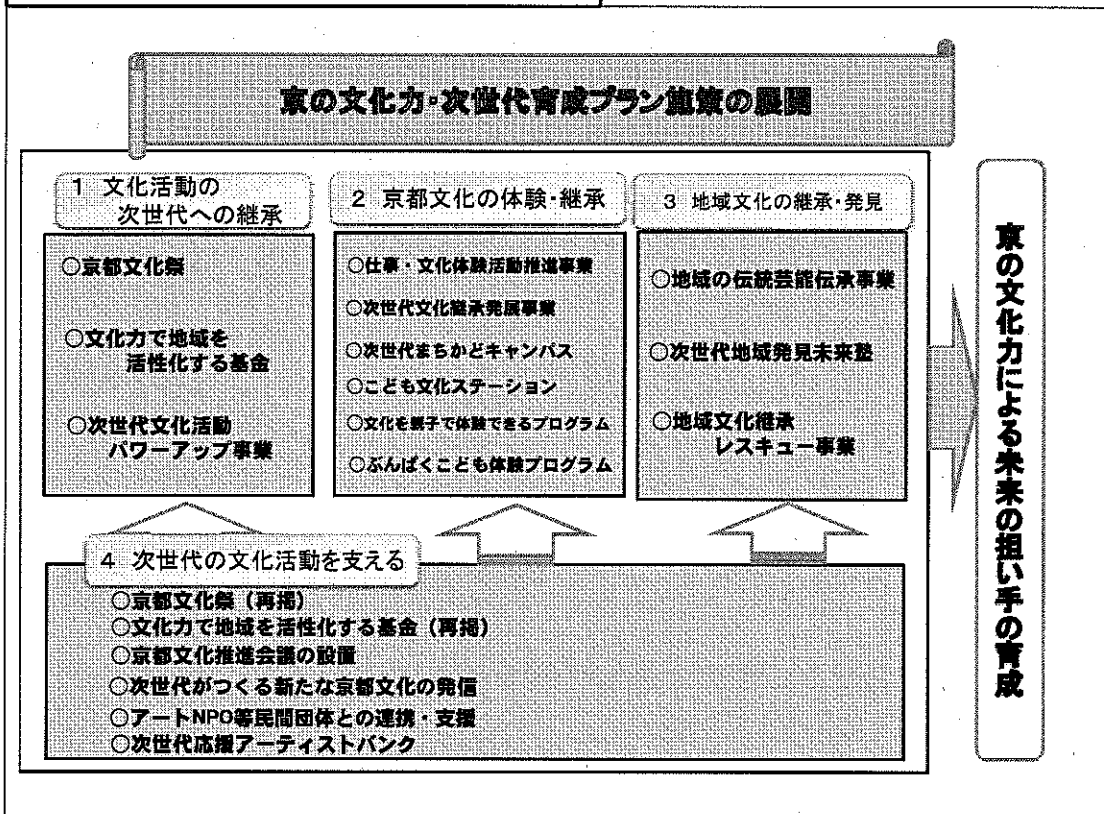
- 国民文化祭を通じて新たな文化活動が生まれたり、若い世代が生き生きとした力を発揮したが、このような成果を次世代に継承し、発展させることが重要
- 東日本大震災の経験を踏まえ、改めて日本人が本来持っている精神性や価値観、「こころ」の文化を次世代に引き継ぐことの重要性を再認識
- 京都は、貴重な文化財や古典が数多く引き継がれるとともに、茶道、華道等の家元等が集積、日本の精神文化や生活文化の拠り所であるが、ライフスタイルの変化により伝統的な文化の継承は、危機的な状況
- 過疎化や核家族化・少子化の進行により、地域における文化や伝統芸能の次世代への継承が困難な状況
- 人口あたりの大学数が全国一など、京都の強みを活かした施策の展開が必要

### 新規施策で達成したい具体的な目標

#### 京の文化力による未来の担い手の育成

- 国民文化祭により育まれた文化活動を次世代に継承・発展
- 次世代が、学校や地域など身近な場において、京都ならではの「ほんまもん」の京都文化を体感・体験し、継承
- 京都府内の各地域に育まれてきた多様な文化を次世代が体感・体験・発見、継承・発展
- 次世代の文化活動の継承・発展を支える仕組みづくり

新規施策（制度）のスキーム（模式図）



1 国民文化祭により育まれた文化活動を次世代に継承・発展

（施策の内容）

＜京都文化祭（仮称）の開催＞

国民文化祭の成果を一過性に終わらせることなく、次世代に伝えるため、府内各地の文化団体・人材の力を結集し、ノウハウを活用して、総合的な文化の祭典を開催。第一線の芸術家等によるほんまもの「こころ」の文化を伝える場として、また、地域での文化活動や次世代の文化活動の発表の場としても提供。

＜文化力で地域を活性化する基金の創設＞

地域の伝統文化の復興、継承を支援するとともに、国民文化祭で実施された種目の定着及び発展、全国への発信、次世代への継承発展を支援するための基金を創設。

### ＜次世代文化活動パワーアップ事業＞

国民文化祭で実施された種目など様々な文化の地域への定着や、全国への発信力の強化を目指して、市町村が行う全国レベルで活躍する指導者の招聘、全国的な大会への次世代の派遣事業等を支援。

2 次世代が、学校や地域など身近な場において、京都ならではの「ほんまもん」の京都文化を体感・体験し、継承

(施策の内容)

### ＜仕事・文化体験活動推進事業＞

児童生徒の豊かな感性を育むため、府内の小中学校において、地域の伝統文化に関する体験活動や仕事に関する体験活動を授業の中で実施。

### ＜次世代文化継承発展事業＞

次世代を担う子ども達が、古典芸能、伝統工芸、舞台芸術等の分野において「ほんまもん」を体感・体験し、成果を発表する機会を、課外活動等で提供。

### ＜次世代まちかどキャンパス（仮称）の開催＞

公民館、工房等地域の身近な会場をキャンパスとして、様々な分野で京都ならではの芸術家等を講師とする本格的な文化芸術体験講座を開催。

### ＜こども文化ステーションの設置＞

公立文化施設に、地域における交流・育成拠点となる「こども文化ステーション」を設置。次世代を対象とした公演、体験講座、文化体験に係る助言・人材育成等を実施。

### ＜文化を親子で体験できるプログラムの提供＞

親子で、音楽や美術、舞台芸術など、ほんまもんの文化体験をしやすい機会を提供。特に、伝統芸能については、次世代が親しみやすく触れる機会を提供。

### ＜ぶんぱくこども体験プログラムの実施＞

京都文化博物館の特性を活かした文化体験プログラムを、芸術家や教育関係者等と連携して、体験講座やワークショップで実施。

## 3 京都府内の各地域に育まれてきた多様な文化を次世代が体感・体験・発見、継承・発展

(施策の内容)

### ＜地域の伝統芸能伝承事業＞

次世代が、地域に培われてきた地域の祭や伝統芸能を地域の高齢者等から学び体験することにより伝承するため、市町村や地域の文化団体、NPO等が実施する事業活動を支援。

### ＜次世代地域発見未来塾（仮称）事業＞

次世代の目線で、地域の歴史・文化資源等を調査、新たな地域の魅力を発見し、市町村やNPOと連携して、地域の「ものがたり」として発信。

### ＜地域文化継承レスキュー事業＞

地域の絆の原点ともいえる祭、伝統行事等の継承が困難になっている地域に、学生等の派遣等、大学等と連携して、行催事等の継承に必要な取組を実施。

## 4 次世代の文化活動の継承・発展を支える仕組みづくり

(施策の内容)

### ＜京都文化祭（仮称）の開催＞（再掲）

国民文化祭の成果を一過性に終わらせることなく、次世代に伝えるため、府内各地の文化団体・人材の力を結集し、ノウハウを活用して、総合的な文化の祭典を開催。第一線の芸術家等によるほんまもの「こころ」の文化を伝える場として、また、地域での文化活動や次世代の文化活動の発表の場としても提供。

**<文化力で地域を活性化する基金の創設> (再掲)**

地域の伝統文化の復興、継承を支援するとともに、国民文化祭で実施された種目の定着及び発展、全国への発信、次世代への継承発展を支援するための基金を創設。

**<京都文化推進会議(仮称)の設置>**

国民文化祭の様々な成果の次世代育成への活用や、国民文化祭により強化された文化ネットワークを継承発展させるため、「京都文化推進会議(仮称)」を設置。

**<次世代がつくる新たな京都文化の発信>**

次世代育成を通じた文化活動、次世代がつくる新たな文化を国内外に発信。

**<アートNPO等民間団体との連携・支援事業>**

アートNPO等民間団体が行っている次世代を対象にした「舞台公演」「体験プログラム」や地域文化情報等の収集・発信・支援。

**<次世代応援アーティストバンクの設置>**

様々な分野で活躍する京都ならではの芸術家・職人、アートマネージャー等を構成員とする「次世代応援アーティストバンク」を設置して、学校や地域、文化施設等に情報発信、講師派遣等を実施。